

ICT だより

発行日 2013/12/27

手指衛生に関する最新報告

手指消毒による風邪欠席の減少

タイ・バンコクの幼稚園でインフルエンザ様疾患予防のための戦略として、種々の時間間隔でアルコール手指消毒薬を使用し、その有効性の調査が行われました。

1,437 名の小児に、アルコール手指消毒を昼食前のみ(昼食群)、120 分毎(120 群)、および 60 分毎(60 群)の 3 群に分け、インフルエンザ様疾患による欠席率(=欠席日数÷登校すべき日数)の変化を評価したところ、昼食群 0.026、120 群 0.025、60 群 0.017 となり、昼食群と 60 群、120 群と 60 群の差は統計学的に有意でした(図 2)。

1 時間に 1 回のアルコール手指消毒を義務づけることで、就学前児童のインフルエンザ様疾患による欠席率が低下することが示唆されました。しかし、頻回に渡るアルコール手指消毒の手間+消毒薬代と欠席による経済的・時間的負担の比較も検討し、費用対効果を評価する必要があると思われます。

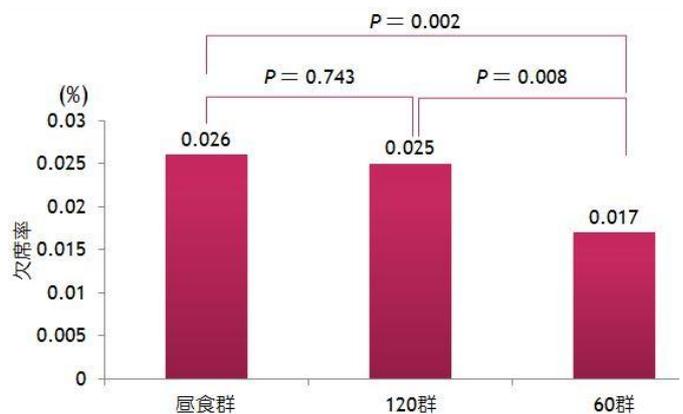


図 2 群別の欠席率 (%)

Appropriate time-interval application of alcohol hand gel on reducing influenza-like illness among preschool children: a randomized, controlled trial. Am J Infect Control 40:507-511, 2012.

目次

- 1 スクリーンセーバーが手指衛生遵守に有効
- 1 手指消毒による風邪欠席の減少
- 2 泡アルコール vs アルコールジェル
- 2 手指衛生向上のためのバンドル

スクリーンセーバーが手指衛生遵守に有効

多くの医療スタッフが日常的に目にするスクリーンセーバーに、手指衛生についてのメッセージを掲示する手法は、多数の医療施設で実施されています。しかし、その多くは不遵守の危険性を強調するものが選ばれ、遵守の有益性を強調するメッセージの効果は検討されてきませんでした。

オランダで新生児集中治療室(27 床)周辺にあるパソコンに、それまで手指衛生をしないことによる危機意識を煽るスクリーンセーバーを使用していたところ、手指衛生の遵守率が低下したため、遵守の有益性を強調したものに變更し、介入期間前後の手指衛生遵守を直接観察しました。

介入前に減少傾向にあった患者日あたりの手指消毒回数は、介入後には増加傾向に変化し($P < 0.001$)、手指衛生遵守率は介入前の 303 回中 193 回(63.6%)から介入後の 281 回中 201 回(71.5%)へ改善が認められました(図 1)。

スクリーンセーバーに手指衛生に関する利得強調メッセージを掲示することにより、手指衛生遵守が改善する可能性が示唆されましたが、検討期間が短く、長期的な効果についても比較する必要はあるでしょう。

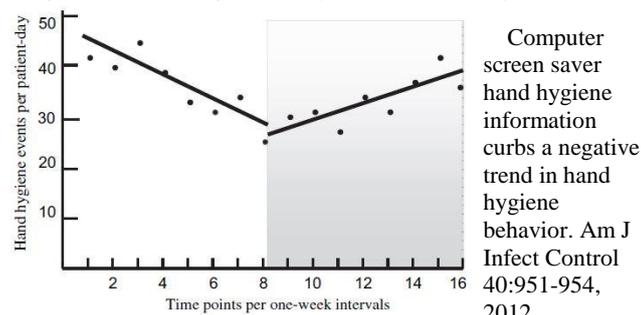


図 1 介入前後の手指衛生遵守率

手指衛生に関する最新報告

泡アルコール VS アルコールジェル

近年、アルコール手指消毒薬の泡（フォーム）タイプ製品が発売され、これまで多く市販されているジェルタイプよりも、使用感の差から手指衛生の遵守率が高くなるといわれてきました。しかし、手指衛生製剤の剤形による有効性を比較検討した研究は僅かしかありませんでした。

ブラジルの同一医療施設内にある8部屋のICU（内科・外科）にて、6週間にわたり、アルコールジェル製剤とアルコールフォーム製剤を4部屋ずつに分け使用し、iPodを用いた直接観察による手指衛生遵守の評価、および各製剤（手洗い用の消毒薬含有石けんも含む）の使用量の測定を実施し、比較を行いました。

合計3,895回の手指衛生機会を観察し、全体の手指衛生遵守率は36.9%と他の研究と同レベルでした。全体の手指衛生遵守率およびアルコール製剤による手指衛生遵守率の差は統計学的に有意でなく、アルコール製剤の使用頻度は手洗い石けんよりも高くなりましたが、アルコール製剤の剤形にかかわらず、手指衛生遵守率はいずれの病室でも同程度となりました（表1）。これらのことから、医療従事者は、どのような製剤であっても利用が容易であれば使用する傾向であることが示唆されています。

Hand hygiene compliance in the critical care setting: a comparative study of 2 different alcohol handrub formulations. Am J Infect Control 41:136-139, 2013.

表1 アルコール製剤による遵守率の差

	フォーム	ジェル	P値
患者入院日数	1,846	1,825	
手指衛生回数	1,710	1,727	
必須手指衛生機会	1,853	2,042	
手指衛生遵守率(%)	8.3	5.6	.09
手指消毒遵守率(%)	1.3 (580/1,853)	1.8 (650/2,042)	.75
手洗い遵守率(%)	7.0 (130/1,853)	3.8 (77/2,042)	<.01

手指衛生向上のためのバンドル

バンドルとは直訳すると「束」という意味になりますが、米国ではエビデンスレベルの高い複数の施策を複数実施することをバンドルと呼んでいます。ひとつの感染予防策などを実践するよりも、文字通り bundle＝束にした方が、より高い感染予防効果につながると考えられており、日本でも近年のトレンドとなっています。

American Journal of Infection Control では、適切な手指衛生の実践を促進するための相乗的・組織的取り組みの展開を図るうえで以下の8つバンドルを提唱しています。

1. 感染率に対する継続的な監視やフィードバックの確立
2. 行政のリーダーシップおよびサポート体制の確立
3. 集学的デザインと対応チームの設置
4. 継続的な教育やスタッフ、患者、家族、訪問者のためのトレーニングの提供
5. 容易に使用可能な手指消毒薬の設置や手洗い環境の整備
6. 手指衛生行動と説明の強化
7. 手指衛生を想起させるシステム（例えば音声による喚起放送）の提供
8. 手指衛生遵守の継続的な監視とフィードバックの確立

このバンドルはエビデンスレベルの高い文献からメタアナリシスされたもので、「バンドル化のアプローチは感染の持続的な減少をもたらす」と結ばれています。

Bundling hand hygiene interventions and measurement to decrease health care-associated infections. Am J Infect Control 40:S18-27, 2012.